

部会間連携研究集会

## 基本構造モデルの新たな展開

日時： 3月13日（火） 13:00-17:20

場所： 東京大学地震研究所セミナー室 AB（1号館2階）

目的： 地震火山研究の基本情報である構造モデルの構築が進められています。作成の現状や課題、利用側の要望、今後の展開に向けたコンセプトやデザインについて、次期計画をはじめ、様々な分野で幅広く利用されるモデルを目指した議論を行います。

### プログラム

- 13:00-13:05 趣旨説明（戦略室）
- 13:05-13:30 日本列島沈み込みシステムの基本構造モデルによる地震発生ポテンシャルの評価  
佐藤比呂志・岩崎貴哉・石山達也・橋間昭徳・篠原雅尚（東大地震研）・松原誠（防災科技）・石川正弘（横浜国大）
- 13:30-13:50 地球物理データによる構造モデルの構築 岩崎貴哉（東大地震研）
- 13:50-14:10 構造探査・変動地形データによる震源断層モデルの構築 石山達也（東大地震研）
- 14:10-14:30 粘弾性三次元有限要素法による日本列島上盤プレート内の震源断層面の応力変化  
橋間昭徳（東大地震研）
- 14:30-14:50 内陸地震研究での基本構造モデルの位置づけ 松本聡（九大・内陸部会長）
- 14:50-15:10 休憩
- 15:10-15:30 海溝型地震研究と基本構造モデル 西村卓也（京大防災研・海溝型副部会長）
- 15:30-15:50 強震動予測高度化に必要な基本構造モデル 関口春子（京大防災研）
- 15:50-16:10 シミュレーション研究から基本構造モデルへの期待 平原和朗（京大理）
- 16:10-16:30 「揺れの数値予報」における構造モデルの重要性 小木曾仁（気象研）
- 16:30-16:50 粘性緩和による変動と構造モデル 水藤尚（国土地理院）
- 16:50-17:20 議論（戦略室）

担当 研究戦略室 高橋浩晃 (hiroaki@sci.hokudai.ac.jp)